

授 業 進 行 確 認 表

授業タイトル(科目名) 発達と老化の理解A		授業の種類 講義	授業担当者 三輪 五月
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 1年 前期	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p style="text-align: center;">人間の成長・発達及び発達段階における課題、老年期の特徴と老年期における発達課題を理解する。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間の成長と発達の過程における身体的・心理的・社会的変化が老年期の生活に及ぼす影響について学ぶ。 ・介護を必要とする人の理解を深めるために人間の成長と発達の観点から人の人生についての知識を学ぶ。 <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達の定義、発達段階、発達課題について理解している。 ・人間の発達段階と発達課題、身体的、心理的機能の成長と発達について理解している。 ・老年期の発達課題、心理的な課題(老化、役割の変化、障害、喪失、経済的不安、うつ等)と支援の留意点について理解している。 			
〔授業の進行状況〕			実施日
1	人間の成長と発達の基礎的知識		/
2	人間の発達理論、発達段階と発達課題		/
3	人間の身体的・心理的機能の発達		/
4	人間の社会的機能の発達		/
5	老年期の定義と特徴		/
6	老年期の発達課題		/
7	老年期をめぐる今日的課題		/
8	加齢による生理的機能の変化と心理的機能低下による日常生活への影響		/
9	老化にともなう身体的な変化と生活への影響		/
10	老化にともなう認知機能、知的機能の変化と心理的影響		/
11	パーソナリティの変化、老化と動機づけ・適応の理解		/
12	老化にともなう社会のなかでの生活上の課題と高齢者の社会的活動の現状と課題		/
13	社会における老化理論と老化にともなう社会的な変化と生活への影響		/
14	重点学習		/
15	まとめ		
〔使用テキスト・参考文献〕 中央法規 最新 介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解		〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など) 筆記試験	

授 業 進 行 確 認 表

授業タイトル(科目名) 人間の理解A		授業の種類 演習	授業担当者 鳥羽 由里江
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 2年前期	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p style="padding-left: 40px;">生活の主体性としての人間の自立や尊厳を尊重するための人間観の涵養を図ること。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p style="padding-left: 40px;">毎時間ごとテーマを設定し、個人ワークやグループワークを行なう。</p> <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p style="padding-left: 40px;">介護福祉士として必要な人間に対する倫理観や社会観を身につけることができる。</p>			
〔授業の進行状況〕			実施日
1	他者紹介しよう		／
2	こころとしくみを知ろう①		／
3	こころとしくみを知ろう②		／
4	こころとしくみを知ろう③		／
5	こころとしくみを知ろう④		／
6	こころとしくみを知ろう⑤		／
7	「やさしさ」について考える		／
8	「支える」ことについて考える		／
9	「受援力」を身につけよう		／
10	「孤独」について考える		／
11	「身体」について考える		／
12	「自己肯定観」について考える		／
13	「自己評価」について考える		／
14	「自己信頼感」について考える		／
15	「人間の理解」について考える		
〔使用テキスト・参考文献〕		〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など)	
毎授業ごとレジュメを配布する。		授業内課題20点 授業への取り組む姿勢20点 試験60点	

授 業 進 行 確 認 表

授業タイトル(科目名)		授業の種類	授業担当者
人間の理解B		講義・演習	鳥羽 由里江
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15	30(2)	2年 後期	必修
〔授業の目的・ねらい〕			
利用者の尊厳の保持と自立(自律)した生活を支えるために必要な自分も含めた人間関係を深める。			
〔授業全体の内容の概要〕			
毎回、テーマを設定し、個人ワークやグループワークを通して学ぶ。			
〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕			
いち生活者として自分自身の生活を振り替える中で人間の可能性を信じ、人への理解を深めることができる。			
〔授業の進行状況〕			
			実施日
1	オリエンテーション		／
2	他者紹介を通して人間の理解を深める		／
3	創作ダンスを通してグループダイナミックスを学ぶ①		／
4	創作ダンスを通してグループダイナミックスを学ぶ②		／
5	創作ダンスを通してグループダイナミックスを学ぶ③		／
6	創作ダンスを通してグループダイナミックスを学ぶ④		／
7	創作ダンスを通してグループダイナミックスを学ぶ⑤		／
8	「からだ」について考える①		／
9	「からだ」について考える②		／
10	サインとしての「からだ」		／
11	「やさしさ」について考える		／
12	「孤独」について考える		／
13	受援力について考える		／
14	自己信頼感について考える		／
15	他者を支援するとは		
〔使用テキスト・参考文献〕		〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など)	
毎授業ごとレジュメを配布する。		出席点10点・授業内課題25点 授業への取り組む姿勢25点 レポート試験40点	

授 業 進 行 確 認 表

授業タイトル(科目名) 社会の理解A		授業の種類 講義	授業担当者 鳥羽 友里江
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 1年後期	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>個人の生活と人間の集団としての社会との関係性を踏まえた上で、各種社会福祉施策が個人の生活にどのように影響をもたらすのかを理解することができる。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>講義を中心にインプットをしたあと、單元ごとに確認プリントを用いてアウトプットを行う。</p> <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>広義の日本における社会保障制度の成り立ちと現在施策について理解することができる。</p>			
〔授業の進行状況〕			実施日
1	「福祉」と「社会福祉」の概念について		／
2	社会福祉の返還①		／
3	社会福祉の返還②		／
4	社会福祉の返還③		／
5	現代社会と社会福祉の動向		／
6	社会福祉施策① 社会福祉法その1		／
7	社会福祉施策② 社会福祉法その2		／
8	社会福祉施策③ 社会福祉法その3		／
9	社会福祉施策④ 社会福祉法その4		／
10	社会福祉施策⑤ 生活保護法その1		／
11	社会福祉施策⑥ 生活保護法その2		／
12	社会福祉施策⑦ 障害福祉その1		／
13	社会福祉施策⑧ 障害福祉その2		／
14	社会福祉施策⑨ 障害福祉その3		／
15	まとめ		／
〔使用テキスト・参考文献〕		〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など)	
『新・介護福祉士養成講座2 社会の理解』 介護福祉士養成講座編集委員会(編) 中央法規		出席点5点・授業内課題20点 授業への取り組む姿勢15点 試験60点	

授 業 進 行 確 認 表

授業タイトル(科目名) 社会の理解B		授業の種類 講義	授業担当者 鳥羽 由里江
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 2年前期	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p style="padding-left: 40px;">福祉サービスに関わる主な法制度のしくみを習慣すること。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p style="padding-left: 40px;">テキストを中心に講義形式でおこなう。</p> <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p style="padding-left: 40px;">介護福祉士として職務を遂行するために必要となる法施策を理解することができる。</p>			
〔授業の進行状況〕			実施日
1	社会保障とは		/
2	社会保障の役割		/
3	日本の社会保障の位置づけ		/
4	日本の社会保険の種類		/
5	年金制度①		/
6	年金制度②		/
7	年金制度③		/
8	医療保険制度①		/
9	医療保険制度②		/
10	医療保険制度③		/
11	雇用保険制度		/
12	労災保険制度		/
13	介護保険制度①		/
14	介護保険制度②		/
15	介護保険制度③		
〔使用テキスト・参考文献〕		〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など)	
新・介護福祉士養成講座『社会と制度の理解』中央法規		授業内課題20点 授業への取り組む姿勢20点 試験60点	

授 業 進 行 確 認 表

授業タイトル(科目名) 社会福祉行政論		授業の種類 講義	授業担当者 鳥羽 由里江
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 2年 前期	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p style="text-align: center;">行財政を含む福祉の制度的なしくみと福祉計画の意義について理解すること</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p style="text-align: center;">テキストを中心に講義形式で行う。</p> <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p style="text-align: center;">行財政を含む福祉の制度的なしくみと福祉計画の意義について理解することができる。</p>			
〔授業の進行状況〕			実施日
1	行政とは		／
2	国と地方自治体の関係		／
3	社会福祉行政の歴史①		／
4	社会福祉行政の歴史②		／
5	社会福祉財政①		／
6	社会福祉財政②		／
7	社会福祉財政③		／
8	社会福祉行政の実施体制(福祉事務所)		／
9	社会福祉行政の実施体制(児童相談所)		／
10	社会福祉行政の実施体制(身体障害者更生相談所)		／
11	社会福祉行政の実施体制(知的障害者更生相談所)		／
12	社会福祉行政の実施体制(その他)		／
13	社会福祉計画①		／
14	社会福祉計画②		／
15	社会福祉計画③		
〔使用テキスト・参考文献〕		〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など)	
新・社会福祉士養成講座『福祉行財政と福祉計画』中央法規		授業内課題20点 授業への取り組む姿勢20点 試験60点	

授 業 進 行 確 認 表

授業タイトル(科目名) 公的扶助論		授業の種類 講義	授業担当者 鳥羽 由里江
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 2年 後期	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>現代社会に暮らす私たちが貧困や低所得という状態になった時に、どのような日本という国がどのような方策をとっているかを学ぶ。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>講義を中心とし、單元ごとに確認プリントを実施する</p> <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>日本における近年の貧困・低所得者問題の社会経済的背景、それらに対応するセーフティネットの状況ならびに施策の動向や近年の法改正について理解することができる</p>			
〔授業の進行状況〕			実施日
1	公的扶助の広義の概念		／
2	公的扶助の広義の概念特徴		／
3	公的扶助の歴史①～英国編～		／
4	公的扶助の歴史②～国内編～		／
5	公的扶助の歴史③～国内編～		／
6	現行の生活保護制度の概念① 生活保護の4つの基本原理		／
7	現行の生活保護制度の概念② 生活保護の4つの基本原理		／
8	現行の生活保護制度の概念③ 生活保護の種類		／
9	現行の生活保護制度の概念④ 生活保護の実施体制		／
10	現行の生活保護制度の概念⑤ 生活保護基準		／
11	現行の生活保護制度の概念⑥ 生活保護施設		／
12	現行の生活保護制度の概念⑦ 被保護者の権利と義務		／
13	低所得者施策の概念① 生活困窮者自立支援制度		／
14	低所得者施策の概念② 自立支援プログラムの意義と実際		／
15	低所得者施策の概念③ 生活福祉資金貸付制度		／
〔使用テキスト・参考文献〕			〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など)
『社会福祉学習双書2019 第7巻 公的扶助論 低所得者に対する支援と生活保護制度』 『社会福祉学習双書』編集委員会(編) 中央法規、2019年			出席点5点・授業内課題20点 授業への取り組む姿勢15点 試験60点

授 業 進 行 確 認 表

授業タイトル(科目名) 家庭福祉論		授業の種類 講義	授業担当者 井出 沙里
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 2年前期	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p style="text-align: center;">家族の変遷を追いつつ、その時々 of 家族の抱える生活課題を通して社会福祉との関係を理解すること。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p style="text-align: center;">家族が抱える生活課題を事例や視覚教材を用いて学んでいく。</p> <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p style="text-align: center;">学生一人ひとりが自分なりの家族観を確立し、利用者を取り巻く様々な家族関係を理解することができる。</p>			
〔授業の進行状況〕			実施日
1	家族とは何か		／
2	家族の機能		／
3	家族の変遷①		／
4	家族の変遷②		／
5	家族の変遷③		／
6	子育てと家庭福祉		／
7	介護と家庭福祉		／
8	障害児・者と家庭福祉		／
9	DVと家庭福祉		／
10	ひとり親家庭と家庭福祉		／
11	貧困と家庭福祉		／
12	現代社会が抱える家庭福祉問題①		／
13	現代社会が抱える家庭福祉問題②		／
14	現代社会が抱える家庭福祉問題③		／
15	家族とは何か		
〔使用テキスト・参考文献〕		〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など)	
毎授業ごとレジュメを配布する。		授業内課題20点 授業への取り組む姿勢20点 試験60点	

授業進行確認表

授業タイトル(科目名) レクリエーション概論		授業の種類 講義	授業担当者 柳 典子
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 1年 前期	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>レクリエーションの意義・運動の歴史、使命、仕組み、制度について理解を深め、支援者としての役割を確認する。個人のライフスタイルや家族、地域社会におかれている状況、少子高齢化の課題を確認し、レクリエーション支援が必要とされる具体的な場面について理解を深める。事業の計画、実施、評価の方法、安全管理について学び、主体的に活動するための方法を学ぶ。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>レクリエーションの意義を理解し、日常生活にレクリエーションを定着させ、生きる活力につなげる。講義だけでなく、演習やグループワークを多く取り入れ、同時に「楽しさ」を体験しながら、主体的に学ばせる。</p> <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>レクリエーションの意義を理解し、幼児から高齢者、障がい者を対象としたレクリエーションの企画・運営・指導に対して、必要な理論と演習を通して支援者として力量形成をめざす。</p>			
〔授業の進行状況〕			実施日
1	レクリエーションの意義		／
2	レクリエーション運動を支える制度		／
3	レクリエーションインストラクターに期待される役割		／
4	人を支える支援者にとってのレクリエーション・レクリエーション支援の考え方		／
5	レクリエーション事業論	レクリエーションの考え方・展開方法・安全管理	／
6	レクリエーション事業論	レクリエーション活動の実践Ⅰ	／
7	レクリエーション事業論	レクリエーション活動の実践Ⅱ	／
8	レクリエーション事業論	プログラムの組み立て方	／
9	レクリエーション支援論	ライフステージごとの課題とレクリエーション	／
10	レクリエーション支援論	高齢社会の課題とレクリエーション	／
11	レクリエーション支援論	少子化の課題とレクリエーション	／
12	レクリエーション支援論	家族とレクリエーション	／
13	レクリエーション支援論	事業計画Ⅰ	／
14	レクリエーション支援論	事業計画Ⅱ	／
15	事業実施と安全管理・評価と継続の重要性 まとめ		
〔使用テキスト・参考文献〕 レクリエーション支援の基礎			<p>〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など)</p> <p style="text-align: center;">授業態度30% 筆記試験70%</p>

授業進行確認表

授業タイトル(科目名)		授業の種類	授業担当者
介護の基本A		講義・演習	長谷川 邦子
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15	30/60 (2/4)	1年 前期	必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>複雑化、多様化、高度化する介護ニーズや介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題としてとらえ、尊厳の保持や自立支援等、介護福祉の基本となる理念を理解する</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護の成り立ち、専門職が誕生した社会的な背景を学ぶ ・歴史的な経過をふまえた今日の介護サービスとその基本理念を学ぶ ・「社会福祉士及び介護福祉士法」に関する諸規定を習得する <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>介護福祉の基本理念、介護福祉士の役割と機能と「社会福祉士及び介護福祉士法」に関する諸規定について理解できる</p>			
〔授業の進行状況〕			
			実施日
1	オリエンテーション		／
2	介護の意味、成り立ち、対象者		／
3	介護サービスと家族介護のバランス		／
4	福祉専門職が誕生した社会的背景		／
5	介護の概念の返還① 1970年代 1980年代		／
6	介護の概念の返還② 1990年代 2000年以降		／
7	「老人福祉法」と「介護保険法」 老人家庭奉仕員の業務		／
8	介護福祉の基本理念① 尊厳を支える介護		／
9	介護福祉の基本理念② 自立を支える介護		／
10	介護福祉士の活動の場と役割		／
11	「社会福祉士及び介護福祉士法」①		／
12	「社会福祉士及び介護福祉士法」②		／
13	演習:心身の状況に応じた介護 介護福祉士の義務規定		／
14	養成カリキュラム 介護福祉士への期待		／
15	介護福祉を支える団体 まとめ		／
〔使用テキスト・参考文献〕		〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など)	
中央法規 : 介護の基本 I		筆記試験:70% 平常点:30%(授業態度、レポート、小テスト)	

授 業 進 行 確 認 表

授業タイトル(科目名) 介護の基本A		授業の種類 講義・演習	授業担当者 長谷川 邦子
授業の回数 15	時間数(単位数) 30/60 (2/4)	配当学年・時期 1年 後期	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>ICFの視点にもとづくアセスメントを理解し、エンパワメントの観点から個々の状態に応じた自立を支援するための環境整備や介護予防、リハビリテーションの意義や方法を理解する</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・倫理的判断が必要な場面での介護福祉士の対応について学ぶ ・利用者の意思決定を支援する自立支援の考え方について学ぶ ・ICF・リハビリテーション・介護予防と介護福祉士の役割を学ぶ <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>介護福祉の専門性と倫理を理解し、介護福祉士に求められる専門職としての態度を形成する</p>			
〔授業の進行状況〕			
			実施日
1	前期の振り返り		／
2	介護福祉士の倫理		／
3	倫理的判断と介護福祉士の対応		／
4	日本介護福祉士会倫理綱領		／
5	演習: 利用者の尊厳を保持した倫理実践		／
6	自立支援① 自立支援とエンパワメント		／
7	自立支援② 自立支援とICF	演習: 意思決定の支援	／
8	ICF 介護におけるICF		／
9	演習: 高齢者のストレングス		／
10	リハビリテーション①	リハビリテーションの実際 障害の理解	／
11	リハビリテーション②	自立のとらえ方 介護福祉士の役割	／
12	演習: リハビリテーションの理念 目的と役割		／
13	介護予防①	介護予防の概念、特徴	／
14	介護予防②	高齢者と介護予防、介護福祉士の役割	／
15	まとめ		
〔使用テキスト・参考文献〕		〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など)	
中央法規 : 介護の基本 I		筆記試験: 70% 平常点: 30%(授業態度、レポート、小テスト)	

授業進行確認表

授業タイトル(科目名) 介護の基本B		授業の種類 講義・演習	授業担当者 長谷川 邦子
授業の回数 15	時間数(単位数) 30/60 (2/4)	配当学年・時期 1年生 前期	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>介護福祉サービスの目的は、介護を必要とする人たちが、日々のあらゆる生活行為に対して、その思い、願いを反映させて生活できるよう支援することにある。どのような状況において、その人らしい生活が送れることを支援する専門職として「生活」の意味を理解する。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その人らしさと生活ニーズの理解 ・生活を支えるフォーマルサービス、インフォーマルサービスの理解 ・ストレングスの視点、エンパワメントアプローチ <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>人間の生活は、生命維持のための活動だけでなく、その行為が社会という関係性のなかで、それぞれに「役割」をもっていることを理解する。</p>			
〔授業の進行状況〕			実施日
1	私たちの生活の理解① 生活とは何か 生活(活動)の3つの区分		/
2	私たちの生活の理解② 男女、年齢階級、行動の種類別生活時間		/
3	暮らしの多様性、地域性、人生という「歴史」、自分らしさ		/
4	介護福祉を必要とする人の暮らしの理解		/
5	高齢者の暮らしから		/
6	障害者の暮らしから		/
7	介護福祉士としてかかわる視点		/
8	「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解		/
9	生活のしづらさの理解とその支援		/
10	家族介護者への支援		/
11	生活を支えるフォーマルサービス (介護保険制度)におけるサービス①		/
12	社会的サービス (介護保険制度)におけるサービス②		/
13	〔障害者総合支援法〕 障害者のためのフォーマルサービス		/
14	インフォーマルサービス(私的サービス)		/
15	小テスト まとめ		
〔使用テキスト・参考文献〕		〔単位認定の方法及び基準〕	
中央法規:介護の基本Ⅱ		(試験やレポートの評価基準など) 筆記試験:70% 平常点:30%(授業態度、レポート、小テスト)	

授 業 進 行 確 認 表

授業タイトル(科目名)		授業の種類	授業担当者
介護の基本B		講義・演習	長谷川 邦子
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15	30/60 (2/4)	1年生 後期	必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住み慣れた地域の中で、生活を継続していくためのサービスの種類・内容・特徴を学ぶ ・地域連携の実際から、サービス提供者だけの協力ではなく、利用者本人を主体として、家族・サービス提供者が協 力する ・多様な視点・受容、コミュニケーション能力を高める <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>地域連携の3つのレベル、地域福祉にかかわる組織、団体、担い手 保健・医療・福祉職の役割と機能</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>可能な限り住み慣れた地域で生活を継続することができるように、包括的支援とサービス提供体制の構築を図る地域包括ケアシステムの実現にむけた介護福祉士の役割を理解する</p>			
[授業の進行状況]			実施日
1	高齢者の生活を支えるサービス		/
2	障害者の生活を支えるサービス		/
3	地域連携① 地域連携の意義と目的		/
4	地域連携② 地域福祉にかかわる組織・団体・担い手の実際		/
5	協働する多職種の機能と役割		/
6	多職種連携、協働の必要性、効果		/
7	多職種連携、協働を阻むもの		/
8	チームづくり		/
9	課題解決に対する多職種のかかわり		/
10	ホスピタリティ・コミュニケーション能力		/
11	保健・医療・福祉職の役割、機能①		/
12	保健・医療・福祉職の役割、機能②		/
13	多職種連携・協働の実際①		/
14	多職種連携・協働の実際②		/
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
中央法規:介護の基本Ⅱ		筆記試験:70%	
		平常点:30%(授業態度、レポート、小テスト)	
		定期試験	

授業進行確認表

授業タイトル(科目名) 介護の基本C		授業の種類 講義・演習	授業担当者 長谷川 邦子
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 1年生 後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護の場におけるセーフティマネジメント・尊厳ある暮らしの継続のためのリスクマネジメントが実践できる ・介護従事者の健康管理の意義と労働環境の整備について理解する <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士の責務と安全の確保 ・事故防止、感染症対策、身体拘束禁止 ・こころの健康、からだの健康、環境整備 <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リスクを回避する方法を身につけ、安全の確保を図る ・介護従事者の健康管理、労働環境の整備がよりよい介護につながることを理解する 			
[授業の進行状況]			
			実施日
1	前期の振り返り	介護における安全の確保	/
2	セーフティマネジメント	安全対策と組織風土	/
3	リスクマネジメント①	尊厳ある暮らしの継続のために	/
4	リスクマネジメント②	安全・安心・事故防止	/
5	演習: 身体拘束の廃止について		/
6	感染症対策①	介護福祉職に必要な知識	/
7	感染症対策②	安全な対応・スタンダードプリコーション	/
8	感染症対策③	個別の感染症対策、発生時の対応フロー	/
9	感染症対策④	薬物療法、連携、観察ポイント	/
10	介護従事者の安全	健康管理の意義と目的 法制度	/
11	介護に従事する人の健康問題、健康管理		/
12	こころの健康問題	ストレスとこころの健康 職場で取り組む	/
13	身体の健康管理	腰痛予防	/
14	労働環境の整備	労働条件 労働災害 労働環境	/
15	事例(けがの予防)	まとめ	
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 小テスト・レポート課題 筆記試験: 70% 平常点: 30%(授業態度、レポート、小テスト)	
中央法規 : 介護の基本Ⅱ			

授 業 進 行 確 認 表

授業タイトル(科目名) レクリエーション活動援助法A		授業の種類 演習	授業担当者 柳 典子
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 1年 後期	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p style="padding-left: 40px;">ライフスタイルに合わせた段階の課題をしり、集団レクリエーションの企画・実施を行えるようにする。また、レクリエーションのスキル・技法を学ぶ。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p style="padding-left: 40px;">レクリエーション技法を体験し、分析・企画・評価の方法を取得する</p> <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p style="padding-left: 40px;">集団レクの立案・実施を行うことができる</p>			
〔授業の進行状況〕			実施日
1	オリエンテーション		／
2	自己紹介・発表		／
3	プログラムシートの書き方		／
4	ホスピタリティートレーニング		／
5	アイスブレイキング①		／
6	アイスブレイキング②		／
7	プログラム立案①		／
8	プログラム立案②		／
9	ニュースポーツ①		／
10	ニュースポーツ②		／
11	グループ企画		／
12	グループ企画発表①		／
13	グループ発表②		／
14	プログラム実施①		／
15	プログラム実施②		／
〔使用テキスト・参考文献〕 レクリエーション支援の基礎			<p>〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>授業態度、提出物、実施の総合</p>

授 業 進 行 確 認 表

授業タイトル(科目名) レクリエーション活動援助法B		授業の種類 演習	授業担当者 吉田 由香
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 2年 前期	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>ライフスタイルに合わせた段階の課題をしり、1対1、1対集団レクリエーションの企画・実施を行えるようにする。また、レクリエーションのスキル・技法を学ぶ。対象者にあわせたアクティビティアレンジし、福祉施設など、現場に応じたレクリエーションを運営できる力を培う。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>レクリエーション技法を体験し、分析・企画・評価の方法を習得する</p> <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>集団レクの立案・実施を行うことができる</p>			
〔授業の進行状況〕			
			実施日
1	オリエンテーション		/
2	K1・2合同レク チラシ・しおり作り		/
3	複数の対象者に合わせたレクリエーション活動① 立案		/
4	姫路城探索 実施・評価		/
5	姫路城探索 実施・評価		/
6	姫路城探索 実施・評価		/
7	姫路城探索 実施・評価		/
8	複数の対象者に合わせたレクリエーション活動① 準備		/
9	複数の対象者に合わせたレクリエーション活動① 実施		/
10	複数の対象者に合わせたレクリエーション活動① 実施		/
11	プログラム立案② 対象者のここに合わせたレクリエーション 立案		/
12	プログラム立案② 対象者のここに合わせたレクリエーション 準備		/
13	プログラム立案② 対象者のここに合わせたレクリエーション 準備		/
14	プログラム立案② 対象者のここに合わせたレクリエーション 実施		/
15	プログラム実施の評価、改善		
〔使用テキスト・参考文献〕 レクリエーション支援の基礎			〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など) 授業態度、提出物、実施の総合

授 業 進 行 確 認 表

授業タイトル(科目名) コミュニケーション技術A		授業の種類 講義・演習	授業担当者 鳥羽 由里江
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 1年 前期	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p style="text-align: center;">介護を必要とする人に対する理解をするための援助的コミュニケーションを習得すること。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p style="text-align: center;">毎回テーマを設定し、個人ワークやグループワークを行なう。</p> <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p style="text-align: center;">利用者やその家族、また多職種協働におけるコミュニケーションスキルを見つけることができる。</p>			
〔授業の進行状況〕			実施日
1	オリエンテーション		／
2	コミュニケーションとは		／
3	自己紹介をしよう		／
4	コミュニケーションを考える～「キク」こと編～①		／
5	コミュニケーションを考える ～「キク」こと編～②		／
6	コミュニケーションを考える ～「ことば」編～①		／
7	コミュニケーションを考える ～「ことば」編～②		／
8	コミュニケーションスキル ～傾聴の技法～		／
9	コミュニケーションスキル ～相づちの技法～		／
10	コミュニケーションスキル ～繰り返しの技法～		／
11	コミュニケーションスキル ～明確化の技法～		／
12	コミュニケーションスキル ～伝える技術～		／
13	コミュニケーションスキル ～質問の技術～		／
14	コミュニケーションスキル ～ティーチングの技法～		／
15	コミュニケーションスキル ～コーチングの技法～		
〔使用テキスト・参考文献〕		〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など)	
<p>毎授業ごとレジュメを配布する。</p>		<p>授業内課題20点 授業への取り組む姿勢20点 試験60点</p>	

授 業 進 行 確 認 表

授業タイトル(科目名) コミュニケーション技術B		授業の種類 講義・演習	授業担当者 鳥羽 友里江
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 1年後期	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p style="padding-left: 40px;">利用者や利用者家族、また他職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけることができる。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p style="padding-left: 40px;">毎授業ごとにテーマを設定し、そのテーマに対して個人や集団でワークを行う。</p> <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p style="padding-left: 40px;">利用者や利用者家族、また他職種と状況・状態に応じたコミュニケーション技法の実際を習得することができる。</p>			
〔授業の進行状況〕			実施日
1	ティーチングの技法① 指示編		／
2	ティーチングの技法② 助言編		／
3	コーチングの技法		／
4	「共感」について考える① 感情と行動の関係性		／
5	「共感」について考える② 表情と感情の関係性		／
6	利用者への共感的理解について考える		／
7	利用者家族への共感的理解について考える		／
8	準言語的コミュニケーションから共感的理解を考える		／
9	自己覚知しよう		／
10	メッセージの読み取り①		／
11	メッセージの読み取り②		／
12	メッセージの読み取り③		／
13	メッセージの読み取り④		／
14	メッセージの読み取り⑤		／
15	メッセージの読み取り⑥		／
〔使用テキスト・参考文献〕		〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など)	
毎授業ごとレジュメを配布する。		授業内課題20点 授業への取り組む姿勢20点 試験60点	

授業進行確認表

授業タイトル(科目名) 生活支援技術A		授業の種類 講義・演習	授業担当者 山田由記奈・吉田由香
授業の回数 40	時間数(単位数) 80 (5)	配当学年・時期 1年前期	必修・選択 必修
〔授業の目的・ねらい〕 <ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士に必要な生活支援の基礎知識を学ぶ。 ・利用者の生活の豊かさや心身の活性化の援助について学ぶ。 ・利用者が自立した生活を行う上での援助者の役割を理解する。 			
〔授業内容の概要〕 <ul style="list-style-type: none"> ・ひとつひとつの援助の根拠、理論を講義でおさえ、実際の援助を考えながら実施できるよう指導する。 ・I-①実習までにベッドメイキング、車イス操作を習得し、見学する機会の多い食事・排泄介助の基礎知識を習得できるよう指導する。 			
〔授業の進行状況〕			実施日
1	介護演習室オリエンテーションとボディメカニクス (P. 89～90) 、身体の使い方		/
2			/
3	〔講義〕 生活支援とは (P. 2～11)		/
4	〔演習〕 車イスの名称、点検、操作方法、介助方法 (P. 131～136) ※実技チェック課題		/
5	〔演習〕 ベッドメイキング (※実技チェック課題)		/
6	ベッド周辺備品の名称と使用目的、 シーツ・枕カバー・マットレスパッド・タオルケットのたたみ方		/
7	〔演習〕 シーツ交換		/
8	(ベッドメイキング練習含む)		/
9	〔実技チェック〕 車イス操作		/
10	(ベッドメイキング練習)		/
11	〔講義〕 体位変換、姿勢保持、安全安楽について		
12	〔演習〕 体位変換、上方移動、水平移動 (スライディングシート使用)		
13			
14	〔演習〕 杖歩行の介助		
15	〔講義〕 更衣について		
16	〔演習〕 更衣 片麻痺の方への前開きパジャマの介助 (座位) (※実技試験課題)		/
17	〔演習〕 更衣 認知症の方へのトレーナーの介助 (座位)		/
18	(片麻痺の方への前開きパジャマの介助 練習含む)		/
19	〔実技チェック〕 ベッドメイキング		/
20	(片麻痺の方への前開きパジャマの介助 (座位) 練習含む)		
〔使用テキスト・参考文献〕			〔単位認定の方法及び基準〕
中央法規出版 最新介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I 中央法規出版 最新介護福祉士養成講座 7 生活支援技術 II			(試験やレポートの評価基準など) 筆記試験・実技試験・受講姿勢

授業進行確認表

授業タイトル(科目名) 生活支援技術A		授業の種類 講義・演習	授業担当者 山田由記奈・吉田由香
授業の回数 40	時間数(単位数) 80	配当学年・時期 1年前期	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士に必要な生活支援の基礎知識を学ぶ。 ・利用者の生活の豊かさや心身の活性化の援助について学ぶ。 ・利用者が自立した生活を行う上での援助者の役割を理解する。 <p>〔授業内容の概要〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひとつひとつの援助の根拠、理論を講義でおさえ、実際の援助を考えながら実施できるよう指導する。 ・I-①実習までにベッドメイキング、車イス操作を習得し、見学する機会の多い食事・排泄介助の基礎知識を習得できるよう指導する。 			
〔授業の進行状況〕			実施日
21	【演習】名札付け ボタンつけ、まつり縫い、コの字縫い (終わった人から更衣練習)		
22			
23	【演習】車イス外出 坂道、踏切、ブリージング等の操作 (雨天時は紙おむつ交換の介助と入れ替える)		
24			
25	【講義】排泄障害、羞恥心と尊厳について		
26	【演習】排泄 福祉用具の種類 紙おむつ交換の介助 (※実技試験課題)		
27	【演習】布おむつの交換と陰部洗浄 (デモンストレーションのみ)		
28	紙おむつ交換の練習		
29	【講義】食事介助の注意点 (P. 74～)		
30	【演習】とろみ体験、姿勢による嚥下の違い、自助具体験、食事介助		
31	【演習】実技試験の練習・ポイントの押さえ直し		
32			
33	【実技試験】㊤更衣 片麻痺の方への前開きパジャマの介助 (座位)		
34	㊦排泄 紙おむつ交換の介助		
35	【講義】バイタルサインについて		
36	【演習】血圧、体温、脈拍、呼吸の測定		
37	【講義】洗濯、衣類や寝具の衛生管理、掃除について		
38	【演習】洗濯と干し方、畳の部屋の掃除		
39	振り返りとまとめ		
40			
〔使用テキスト・参考文献〕		〔単位認定の方法及び基準〕	
中央法規出版 最新介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I 中央法規出版 最新介護福祉士養成講座 7 生活支援技術 II		(試験やレポートの評価基準など) 筆記試験・実技試験・受講姿勢	

授業進行確認表

授業タイトル(科目名) 生活支援技術B		授業の種類 講義・演習	授業担当者 山田由記奈・吉田由香
授業の回数 34	時間数(単位数) 65(4)	配当学年・時期 1年 後期	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士に必要な生活支援の基礎知識を学ぶ ・利用者の生活の豊かさや心身の活性化の援助について学ぶ ・利用者が自立した生活を行う上での援助者の役割を理解する <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひとつひとつの援助の根拠、理論を講義でおさえ、実際の援助を考えながら実施できるよう指導する。 ・I-②実習までに総合的な身体介助の基礎知識を習得できるよう指導する。 <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p>			
〔授業の進行状況〕			
			実施日
1	【演習】 臥床状態でのシーツ交換 (※実技チェック課題)		/
2			/
3	【講義】 清潔の意義 清潔保持の種類 入浴介助の注意点		/
4	【演習】 手浴・足浴		/
5	【演習】 足浴 全身清拭(デモンストレーション) 特浴(機械浴)、個浴、シャワー浴について		/
6			/
7	【演習】 入浴 全身清拭・機械浴・シャワー浴・ベッド上での洗髪		/
8			/
9			/
10			/
11			/
12			/
13	【実技チェック】 臥床状態でのシーツ交換		/
14			/
15	【演習】 臥床状態での前開きパジャマの交換(一部介助) (※実技チェック課題)		/
16			/
17	【演習】 体力低下、臥床状態の浴衣交換(全般にわたる介助)		/
18			/
19	【講義】 移乗について		/
20	【演習】 ベッドと車いす間の移乗(一部介助) (※実技試験課題)		/
21	【実技チェック】 臥床状態での前開きパジャマの交換(一部介助)		/
22			/
23	【演習】 ポータブルトイレ・尿器・便器		/
24			/
25	【演習】 ストレッチャーへの移乗(全介助)、リフトの活用		/
26			/
27	【総合演習】 実技試験課題の練習、ポイントの押さえ直し		/
28			/
29	【実技試験】 ベッドと車いす間の移乗(一部介助)		/
30			/
31	【講義】 身じたくについて		/
32	【演習】 整髪、化粧、髭剃り、爪切り 口腔ケア、義歯の取り扱い		/
33	再試験 グリーフケア(亡くなったあとの遺族へのケア)とデスクンファレンス		/
34			/
〔使用テキスト・参考文献〕 中央法規出版 最新介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ 中央法規出版 最新介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ		〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など) 筆記試験・実技試験・受講姿勢	

授業進行確認表

授業タイトル(科目名) 生活支援技術C		授業の種類 講義・演習	授業担当者 山田由記奈・吉田由香
授業の回数 26	時間数(単位数) 50(3)	配当学年・時期 2年 前期	必修・選択 必修
〔授業の目的・ねらい〕			
<ul style="list-style-type: none"> ・援助の基礎となる「原理」「原則」を確認し、科学的根拠に基づく生活支援技術を理解する ・ICFの理解を深め「できない部分の援助」から「本人の力を引き出し、状態をよりよくする介護が具体的に実践できるようになる 			
〔授業全体の内容の概要〕			
<ul style="list-style-type: none"> ・1年時に習得した技術の基礎をもとに、色々な障害を併せ持つ対象者に対応する ・人間としての尊厳が守られる。プライバシーに配慮できる。 			
〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕			
<ul style="list-style-type: none"> ・一部介助から全介助へ、基礎技術と複合的ケアを習得する ・福祉用具の正しい知識と活用力を身につける 			
〔授業の進行状況〕			
			実施日
1	オリエンテーション	授業の目標とすすめ方	体幹を鍛えるストレッチング
2			ボディメカニクス
3	車いすの移乗(自立支援・一部介助・全介助)		スライディングボードの活用
4			
5	実技試験(車いす⇄ベッド)全介助		臥床状態でのシーツ交換(復習)
6			
7	臥床状態でのシーツ交換(班ごとにチェック)		麻痺のある利用者の前開き上下の着替え
8			
9	臥床状態での前開き上下着脱とシーツ交換の複合ケア①		
10			
11	おむつ交換(全介助)復習		おむつ交換(片麻痺への支援)
12			
13	オムツ交換 + ズボンの交換②		
14			
15	前期実技試験 複合ケア①②		ポイントと練習
16			
17	認知症への支援を考える(講義・演習)		
18			
19	運動機能障害、内部障害		演習:床からの立ち上がり
20			
21	複合ケア①② 練習、ポイントのまとめ		
22			
23	実技試験		課題:生活支援技術 振りかえり①
24			
25	振り返りとまとめ		
26			
〔使用テキスト・参考文献〕		〔単位認定の方法及び基準〕	
中央法規 : 生活支援技術 I・II		(試験やレポートの評価基準など)	
		筆記試験・実技試験・課題提出	

授業進行確認表

授業タイトル(科目名) 介護支援技術D		授業の種類 講義・演習	授業担当者 山田由記奈・吉田由香
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 2年 後期	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>今後さらに複雑化・多様化・高度化していく介護ニーズに対応できる介護福祉士、緊急事態にも落ち着いて対応できるよう冷静な判断・確かな知識と技術を学び、福祉用具にも精通する。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事介助だけでなく、個々の障害、疾病に応じた食事内容と食事介助、福祉用具の活用(利き手交換・網膜症・嚥下障害への対応) ・緊急時への対応法と福祉用具の新しい方向(AIの活用)とリハビリテーションの実際を学ぶ。 <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>専門職にふさわしい生活支援技術の知識と技術を身につけ、現場に出たあとも立ち返ることができるよう、専門性の向上をめざす。</p>			
〔授業の進行状況〕			実施日
1	オリエンテーション 後期の授業内容、進め方、レポート		／
2	実技(まとめとして)の振り返り 実技試験(2事例)について		／
3	食事介助のアプローチ① 個別ケースに対しグループごとに演習		／
4	〔利き手交換〕 ビデオ撮影後、クラスで見合い、ディスカッション、まとめ		／
5	食事介助のアプローチ②		／
6	〔糖尿病の合併症として、網膜症・神経障害〕		／
7	食事介助のアプローチ③		／
8	〔96歳 体動困難、嚥下困難、ミキサー食〕		／
9	緊急時対応		／
10	姫路西消防署にてAED講習		／
11	福祉用具・リハビリテーション		／
12	西播磨総合リハビリテーションセンターにて最新の福祉用具とリハビリテーションを体験学習		／
13	体幹の福祉用具「マッスルスーツ」について研究所より学ぶ		／
14	マッスルスーツを実際に体験(装着して介護技術を実)		／
15	実技試験		／
16	振り返りとまとめ		／
〔使用テキスト・参考文献〕 中央法規出版『生活支援技術 I・II』		〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など) レポート課題(毎回授業ごとにレポート課題あり) 授業への取り組み、実技試験	

授業進行確認表

授業タイトル(科目名) 生活支援技術:住居		授業の種類 講義・演習	授業担当者 長谷 川邦子
授業の回数 8	時間数(単位数) 15(1)	配当学年・時期 1年 後期	必修・選択 必修・選択
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>生活の基礎である「住まい」。特に高齢者や障害者では1日の約80%を住宅の中で過ごしている。自分らしい生活スタイルで安心・安全・快適に暮らすための住環境について学ぶ。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居住環境の大切さを理解する。 ・人の住まいの多様性について理解する。 ・住まいに関連する環境問題について学ぶ。 <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICFと居住環境の整備(人が安心して暮らせる環境)を理解する。 ・介護保険制度での福祉用具・住宅改修の活用ができる。 			
〔授業の進行状況〕			実施日
1	居住環境の整備…意義と目的		／
2	住まいの変遷…高齢者の住まい・障害者の住まい		／
3	ユニバーサルデザイン 7つの原則 / 福祉用具・住宅改修の利用		／
4	暮らしと環境問題		／
5	安全・快適な生活の場作り		／
6	快適さを妨げる要素 / 事故の配慮		／
7	住まいの管理と安全と安全の確保		／
8	他職種の役割・協働		／
9			／
10			／
〔使用テキスト・参考文献〕 中央法規:「生活支援技術 I」		〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など) 小テスト・課題レポート 定期試験	

授業進行確認表

授業タイトル(科目名) 介護過程A		授業の種類 講義・演習	授業担当者 藤田 梯子
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 1年 前期	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>それぞれに個別の生活歴を重ねている利用者の状態像についての理解を深めることで、1人ひとりに適切な個別ケアを導き出すために必要な基礎知識を学ぶ。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護過程の意義と目的を講義・演習を通して学ぶ ・介護過程プロセスのを学び、介護過程の展開の基本的視点を学ぶ <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>アセスメントの大切さ、その思考過程の具体的な進め方の基本を理解する</p>			
〔授業の進行状況〕			
			実施日
1	オリエンテーション 介護過程の意義と目的	／	
2	人間としてあたりまえの日常生活をおくるために	／	
3	介護過程のプロセス(全体像)	／	
4	課題解決の思考過程(課題解決思考)	／	
5	介護福祉士の役割と介護過程	／	
6	個別ケアの方向性と具体的な方法 根拠のある介護	／	
7	アセスメントの疑似体験	／	
8	ケアプラン、ケアカンファレンス、事例検討	／	
9	個別援助計画(個別サービス計画)、直接的情報・間接的情報	／	
10	アセスメントの思考、生活像を組み立てる3つの観点	／	
11	ICFモデルを活用した情報収集とアセスメントの3つの視点	／	
12	医学モデルと社会モデル 情報の解釈	／	
13	介護計画の立案、目標の設定、具体的支援内容、支援方法	／	
14	実施と評価	／	
15	まとめ 振り返り		
〔使用テキスト・参考文献〕 中央法規:介護過程		〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など) 受講姿勢 小テスト レポート 筆記試験	

授 業 進 行 確 認 表

授業タイトル(科目名) 介護過程B		授業の種類 講義		授業担当者 藤田 梯子	
授業の回数 23	時間数(単位数) 45(3)	配当学年・時期 1年 後期		必修・選択 必修	
<p>〔授業の目的・ねらい〕 ICFに基づいた情報収集と課題の問題解決について学ぶ。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 ICFに基づいた情報収集と課題解決の理解を深める。</p> <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕 ICFによる情報収集が理解できる。</p>					
〔授業の進行状況〕					実施日
1	ICF 各項目についての理解 3つの生活機能レベルの関連性				/
2	「している活動」と「できる活動」 ①している活動の意義				/
3	" ②(ワーク:「している活動」と「できる活動」の分類)				/
4	ICFにもとづく自身の情報確認とニーズの把握 ①(ワーク:自身の情報を書き出す)				/
5	" ②(ワーク:情報からニーズを抽出)				/
6	" ③(ワーク:生活課題の優先順位)				/
7	計画立案の実際① (事例1 K氏の情報を整理する)				/
8					/
9	計画立案の実際② (事例1 K氏のニーズと生活課題を把握する)				/
10					/
11	計画立案の実際③ (事例1 K氏の情報を分析、判断する 予測性と方向性)				/
12					/
13	計画立案の実際④ (事例2 Y氏の情報を整理する)				/
14					/
15	計画立案の実際⑤ (事例2 Y氏のニーズと生活課題を把握する)				/
16					/
17	計画立案の実際⑥ (事例2 Y氏の情報を分析、判断する 予測性と方向性)				/
18					/
19	計画立案の実際⑦ (事例2 Y氏の具体的な援助方法を考える)				/
20					/
21	計画立案の実際⑧ (事例2 計画の見直し)				/
22					/
23	まとめ				/
〔使用テキスト・参考文献〕 なし				〔単位認定の方法及び基準〕 定期試験 受講姿勢 課題	

授 業 進 行 確 認 表

授業タイトル(科目名) 介護過程C		授業の種類 講義	授業担当者 藤田 梯子
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 介護福祉学科2年 前期	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕 介護過程の基本的展開(実施・評価)を理解する。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 介護過程の基本的展開(実施・評価)の理解を深める。</p> <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕 実践に向け、より具体的な計画立案、実施が理解できる。</p>			
〔授業の進行状況〕			実施日
1	介護計画実施の留意点・評価の意義と方法		/
2	計画立案① 事例1(情報の整理)		/
3			/
4	" ② 事例1(生活課題の明確化、本人の思い)		/
5			/
6	" ③ 事例1(情報の分析)		/
7			/
8	" ④ 事例2(情報の整理・生活課題の明確化)		/
9			/
10	" ⑤ 事例2(情報の分析、援助内容立案)		/
11			/
12	" ⑥ 事例2(計画の修正)		/
13			/
14	介護計画立案 実技試験		/
15			/
〔使用テキスト・参考文献〕 プリント		〔単位認定の方法及び基準〕 授業態度 課題 定期試験	

授 業 進 行 確 認 表

授業タイトル（科目名） 介護過程D		授業の種類 講義・演習	授業担当者 藤田 梯子
授業の回数 15	時間数（単位数） 30（2）	配当学年・時期 2年後期	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>施設実習Ⅱにおいて立案・実施した介護計画を発表することで他者への情報提供、分析の共通認識を図る。また、援助実施の過程を振り返ることで、さらに利用者主体の理解を深める。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>施設実習Ⅱで立案・実施した援助について客観的に振り返りを行い、卒業論文に向けて思考の整理を行う。 他者に理解できる手段の検討、工夫を行う。</p> <p>〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕</p> <p>利用者に多くみられる疾患や症状について理解し、利用者把握に役立てることができる。 立案、実施した計画を適切に評価することができる。 他者に理解できるプレゼンテーション技術を理解する。</p>			
〔授業の進行状況〕			実施日
1	介護計画の実施と評価について、発表ガイダンス		／
2	介護実習Ⅱで立案した計画の見直しとまとめ、発表準備①		／
3			／
4	介護実習Ⅱで立案した計画の見直しとまとめ、発表準備②		／
5			／
6	介護実習Ⅱで立案した計画の見直しとまとめ、発表準備③		／
7			／
8	介護実習Ⅱで立案した計画の見直しとまとめ、発表準備④		／
9			／
10	介護実習Ⅱで立案した計画の見直しとまとめ、発表準備⑤		／
11			／
12	事例発表①		／
13			／
14	事例発表②		／
15			／
〔使用テキスト・参考文献〕 プリント、配布資料		〔単位認定の方法及び基準〕 授業姿勢、課題提出、定期試験	

授業進行確認表

授業タイトル(科目名) 介護過程E		授業の種類 講義・演習	授業担当者 長谷川 邦子
授業の回数 8	時間数(単位数) 15(1)	配当学年・時期 2年生 前期	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>利用者お一人ずつがその人らしい生活を送るためには、様々な要素が重なり合い交差している。既存のフォーマルサービスに偏りがちなケアプランの現状をふまえて、色々な状況の中で生活することの意味、人生の尊さを知り、事例を通してチームで支える意味と支援の可能性を広げていく。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケア目ねじ面とにおける社会資源の役割、チームで支えることの意義 ・地域の特性、環境、生活の結びつき ・人の考え方、生活の多様性について考える <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在のかかわり、支援に対して根拠を考え、疑問をもつ。 ・個別性を大事に、かけがえのない人生に寄り添う支援を展開するためのマネジメントを理解する ・どのような現場であっても基本は人との関係づくりであることを理解する 			
〔授業の進行状況〕			実施日
1	社会資源(フォーマルサービス、インフォーマルサービス)とケアマネジメント		/
2	人の暮らしの理解、個別性、多様性		/
3	事例① タバコを隠れている利用者に対する支援 個人ワーク、グループワーク		/
4	"	まとめ	/
5	事例② 知的障害がある高齢者世帯の在宅支援 個人ワーク、グループワーク		/
6	"	まとめ	/
7	「サービス担当者会議」の開催		/
8	事例③ 高齢の妻に対する介護放棄とその家族への支援について		/
9			/
10			/
〔使用テキスト・参考文献〕 中央法規 : 介護過程			<p>〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>授業への取り組み、レポート 筆記試験</p>

授 業 進 行 確 認 表

授業タイトル(科目名) 実習指導A		授業の種類 講義	授業担当者 鳥羽 由里江
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 1年 前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉実習Ⅰ－①に向けて、意義・目的の理解を深める。 ・介護福祉実習の心構え、記録について理解を深める。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p style="padding-left: 20px;">施設実習を行う際の事前学習(種別ごとの施設の特徴、実習目標、実習記録の書き方、実習に臨む姿勢)</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習に臨むにあたって、イメージが具体的にできる。 ・実習Ⅰ－①の目標・実習記録の方法の理解、実習の進め方が理解できる。 			
[授業の進行状況]			
			実施日
1	実習指導授業内容について、介護福祉実習の意義・目的(1)		／
2	介護福祉実習の意義・目的(2) 実習区分について		／
3	介護老人福祉施設とは		／
4	介護老人保健施設とは ・個人票下書き		／
5	通所介護とは		／
6	実習Ⅰ－①について(実習目標、実習課題、実習内容)		／
7	施設実習の心構えについて・実習行動計画表作成		／
8	・実習中の記録物について(施設概要・オリエンテーション・誓約書など)		／
9	・各種記録用紙の書き方(1)		／
10	・各種記録用紙の書き方(2)		／
11	・実習記録の書き方①		／
12	・実習記録の書き方②		／
13	・カンファレンスについて、実習ファイル作成		／
14	・実習終了後の行動について(記録物の提出方法、返信用封筒について)		／
15	・実習記録の書き方③ お礼状の書き方		／
16	実習日誌の書き方④		／
17	実習報告会		／
18	実習報告会		／
19	お礼状清書、書類確認		／
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
メジカルフレンド社 介護総合演習 中央法規 介護福祉用語辞典 ミネルヴァ書房 社会福祉小6法 福祉人材センター・バンク 新人職員マナーガイドブック		(試験やレポートの評価基準など) 試験素点(定期試験・レポート評価含む) 90点 平常点(受講姿勢) 10点	

授 業 進 行 確 認 表

授業タイトル(科目名) 実習指導B		授業の種類 講義・演習・実習	授業担当者 鳥羽 由里江
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 1年 後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p style="padding-left: 40px;">I－①の実習を振り返り、介護福祉実習 I－②に向けて、実習の意義・目的、実習内容の理解を深める。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p style="padding-left: 40px;">施設実習を行う際の事前学習(実習目標、実習内容、実習の進め方、実習記録の書き方など)</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習に臨むにあたって、イメージが具体的にできる。 ・実習 I－②の目標・実習記録の方法、実習の進め方の理解ができる。 			
[授業の進行状況]			
			実施日
1	I－①施設実習の振り返り1(実習に臨む姿勢)		／
2	I－①施設実習の振り返り2(記録物について)		／
3	I－②施設実習について 意義・目的・実習目標・実習内容について		／
4	I－②施設実習について 夜間実習、早出、遅出勤務について、記録の練習		／
5	I－②施設実習について 個人票(下書き)作成・記録の練習		／
6	行動計画表について① 記録の練習		／
7	行動計画表について② 記録の練習		／
8	お礼状の書き方1		／
9	お礼状の書き方2 記録物について		／
10	カンファレンスについて		／
11	個人情報の取り扱いについて		／
12	実習前最終確認(記録物、実習後の動き)		／
13	実習報告会		／
14			／
15	実習ファイル確認、お礼状清書		
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>(株) みらい 介護実習・介護総合演習 中央法規 介護福祉用語辞典 ミネルヴァ書房 社会福祉小6法 福祉人材センター・バンク 新人職員マナーガイドブック</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>試験素点(定期試験・レポート評価含む)80点 平常点(受講姿勢・実習報告会) 20点</p>	

授 業 進 行 確 認 表

授業タイトル(科目名) 実習指導C		授業の種類 講義	授業担当者 鳥羽 由里江
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 2年 前期	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>自己に求められる課題を把握し、専門職に求められる資質を再確認することで介護福祉士としての自覚を促す。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問介護実習の目標・心構えを学ぶ。 ・施設実習 I - ③ 目標・心構え・記録の書き方を学ぶ <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>訪問介護実習・ I - ③の目標・心構えが理解でき、実習に臨む意識を高めることができる。</p>			
〔授業の進行状況〕			
			実施日
1	実習指導授業内容について・ I - ②実習振り返り		/
2	訪問介護実習について①(目的・特徴・サービス内容・実習目標・心構え)		/
3	訪問介護実習について②(DVD, 家事援助について)		/
4	訪問介護実習について③(記録について)		/
5	訪問介護実習について④(記録、個人票)		/
6	訪問介護実習について⑤(個人票作成)		/
7	施設実習 I - ③について(実習内容、実習目標)		/
8	施設実習 I - ③について(個人票下書き作成)		/
9	施設実習 I - ③について(記録振り返り)		/
10	リスクマネジメントについて(報告・連絡・相談についての再確認も含む)		/
11	施設実習で使用する書類関係について、カンファレンスについて		/
12	I - ③施設実習ファイル作成他		/
13	実習終了後の動きについて		/
14	I - ③施設実習報告会		/
15	I - ③施設実習報告会		/
〔使用テキスト・参考文献〕		〔単位認定の方法及び基準〕	
(株) みらい 介護実習・介護総合演習 中央法規 介護福祉用語辞典 ミネルヴァ書房 社会福祉小6法 福祉人材センター・バンク 新人職員マナーガイドブック		(試験やレポートの評価基準など) 試験素点(定期試験・レポート評価含む)90点 平常点(受講姿勢・実習報告会) 10点	

授業進行確認表

授業タイトル(科目名) 実習指導D		授業の種類 講義・演習・実習	授業担当者 鳥羽 由里江
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 2年 後期	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>自己に求められる課題を把握し、専門職に求められる資質を再確認することで介護福祉士としての自覚を促す。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設実習Ⅱについて(意義・目的の確認、自主内容について) ・実習のふりかえり <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>施設実習の目標や実習内容が理解でき、実習に臨む心構えができる。 これまでの実習の振り返りができ、介護福祉士としての自覚をもつことができる</p>			
〔授業の進行状況〕			実施日
1	I-④、在宅実習の振り返り① II 実習個人票下書き		/
2	I-④、在宅実習の振り返り②		/
3	施設実習Ⅱについて(目標・実習内容)		/
4	施設実習Ⅱについて(夜間実習について)		/
5	実習中のリスクマネジメント①		/
6	実習中のリスクマネジメント②		/
7	II 実習に向けての自分自身の課題について		/
8	行動計画表の作成		/
9	記録について①		/
10	記録について②		/
11	実習終了後の動きについて(お礼状、報告会、書類の提出等)		/
12	施設実習Ⅱ 実習報告会		/
13	施設実習Ⅱ 実習報告会		/
14	実習の振り返り		/
15	指導者を目指すためには		
〔使用テキスト・参考文献〕		〔単位認定の方法及び基準〕	
(株) みらい 介護実習・介護総合演習 中央法規 介護福祉用語辞典 福祉人材センター・バンク 新人職員マナーガイドブック		(試験やレポートの評価基準など) レポート点 50点 平常点(受講姿勢・提出物・実習報告会)50点	

授業進行確認表

授業タイトル(科目名) こころとからだのしくみD		授業の種類 講義	授業担当者 亀井省二
授業の回数 8	時間数(単位数) 15(1)	配当学年・時期 1年 後期	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p style="text-align: center;">リハビリテーションの理解と歩行等を中心とした介護とのむすびつき</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p style="text-align: center;">脳卒中・パーキンソン病がでた場合の歩行を中心とした介護の考え方及び理解を促す</p> <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p style="text-align: center;">自立を見すえた介護の理解</p>			
〔授業の進行状況〕			実施日
1	脳卒中とは		/
2	パーキンソン病とは		/
3	障害の受容		/
4	トランスファー		/
5	ボディメカニクス		/
6	ボディメカニクス		/
7	ADLと寝たきりの防止		/
8	自立支援型介護について		/
9			/
10			/
〔使用テキスト・参考文献〕 毎授業ごとプリントを配布		〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など) 筆記試験	

授業進行確認表

授業タイトル(科目名) こころとからだのしくみE		授業の種類 講義・実習	授業担当者 共田 晶子
授業の回数 8	時間数(単位数) 15(1)	配当学年・時期 2年 前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高次機能障害、認知症などの病態、基礎の把握 ・摂食嚥下障害の基礎の把握 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント・ビデオを使用した講義 ・グループワーク ・口腔ケアの実習 <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疾患に合わせたコミュニケーションの理解 ・嚥下状態に合わせた食事の環境設定や介助法方法の検討ができる 			
[授業の進行状況]			実施日
1	言語障害の種類、脳のしくみ、難聴、構音障害について		/
2	高次機能障害の病態、コミュニケーション方法について		/
3	コミュニケーション展開の仕方		/
4	認知症の病態、コミュニケーション方法について		/
5	失語症の病態、コミュニケーション方法について		/
6	失語症の病態、コミュニケーション方法について		/
7	摂食嚥下障害について		/
8	食事介助方法、口腔ケアについて		/
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵で分かる言語障害 ・高次機能障害 ・脳卒中の摂食嚥下障害 ・対人援助とコミュニケーション 脳卒中後のコミュニケーション障害 		<p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)</p> <p style="text-align: center;">選択問題 論述問題</p>	

授 業 進 行 確 認 表

授業タイトル(科目名) 発達と老化の理解B		授業の種類 講義	授業担当者 三輪 五月
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 1年 後期	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>老化にともなうところからだの変化、生活の変化や、高齢者の健康に必要な知識として高齢者に多い症状・疾病等を理解する。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成長や発達の観点から老化を理解し、老化にともなう心理や身体機能の変化及びその特徴に冠する基礎的な知識を習得する。 ・高齢者に見られる疾病と生活の影響、健康維持・増進を含めた生活を支援するための基礎的な知識を習得する。 <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老化にともなう心理的な変化の特徴と日常生活への影響を理解している。 ・老化にともなう心理的な機能の変化の特徴と日常生活への影響を理解している。 ・高齢者に多い症状・疾病と支援の留意点について理解している。 			
〔授業の進行状況〕			
			実施日
1	健康長寿に向けての健康	／	
2	高齢者の症状・疾病の特徴	／	
3	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(骨格系・筋系)	／	
4	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(脳・神経系)	／	
5	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(皮膚・感覚器系)	／	
6	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(循環器系)	／	
7	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(呼吸器系)	／	
8	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(消化器系)	／	
9	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(腎・泌尿器系)	／	
10	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(内分泌・代謝系、歯・口腔疾患)	／	
11	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(悪性新生物)	／	
12	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(感染症、精神疾患、その他)	／	
13	保健医療職との連携	／	
14	重点学習	／	
15	まとめ		
〔使用テキスト・参考文献〕 中央法規 最新 介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解		〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など) 筆記試験	

授 業 進 行 確 認 表

授業タイトル(科目名) 認知症の理解A		授業の種類 講義・演習	授業担当者 松村ひろこ
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 1年 前期	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>認知症に関する基礎的知識を習得するとともに認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解する</p> <p>パーソンセンタード・ケアの実践に向けて具体的に取り組める</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>認知症の人の理解(医学的・心理的)、歴史 認知症の症状が生活に与える影響(中核症状。BPSD) 当事者の視点、パーソンセンタード・ケア</p> <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>認知症を正しく理解することで、認知症を共に生きる方々の幸せな生活をめざした支援</p> <p>当事者の声を聞き、支援することを考えられる支援者</p>			
〔授業の進行状況〕			実施日
1	オリエンテーション		/
2	認知症とは何か？ 脳のしくみ		/
3	認知症の人の心理		/
4	中核・症状の理解		/
5	生活障害の理解		/
6	BPSDの理解		/
7	認知症の診断と重症度		/
8	認知症の原因疾患と症状・生活障害		/
9	認知症の治療薬		/
10	認知症の予防		/
11	認知症を取り巻く状況、これまで-今-これから		/
12	認知症ケアの理念と視点①		/
13	認知症ケアの理念と視点②		/
14	認知症当事者の視点からみえるもの		/
15	前期のまとめ		
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>中央法規 : 認知症の理解</p> <p>参考文献 : 認知症介護実践者研修 標準テキスト (株)ワールドプランニング出版</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>定期試験</p> <p>授業態度</p>	

授 業 進 行 確 認 表

授業タイトル(科目名) 認知症の理解B		授業の種類 講義・演習	授業担当者 松村 ひろこ
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 1年 後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症に関する基礎知識を習得する ・認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人、家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p style="padding-left: 40px;">講義・演習</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p style="padding-left: 40px;">認知症に関する基礎知識が身につき、本人や家族の心理的ニーズを理解したケアができる</p>			
[授業の進行状況]			実施日
1	前期の振り返り		/
2	パーソン・センタード・ケア		/
3	アセスメントツール センター方式		/
4	アセスメントツール ひもとき		/
5	認知症の人とのコミュニケーション		/
6	認知症の人へのケア(食事・排泄)		/
7	認知症の人へのケア(入浴)		/
8	認知症の人へのケア(BPSD)		/
9	ユマニチュード		/
10	バリデーション DCM		/
11	終末期		/
12	環境作り(PEAP)		/
13	介護者支援		/
14	地域支援		/
15	後期の振り返り		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)	
		筆記試験	

授 業 進 行 確 認 表

授業タイトル(科目名) 障害の理解A		授業の種類 講義	授業担当者 藤田 梯子
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 1年 後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>障害の概念を正しく理解し、障害者の法的定義について理解する。 どのような障害があり、障害を持つ人がどのように生活しているかを学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>障害の概念とICFの理解。 障害者の法的定義。 障害の種類と障害者の生活について。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>定期試験により理解度を確認する。</p>			
[授業の進行状況]			実施日
1	障害の概念、捉え方	/	
2	視覚障害（視覚器のしくみと疾患）	/	
3	〃 ②言語・聴覚障害（言語聴覚器のしくみと疾患）	/	
4	内部障害① 心臓機能障害①心臓のしくみとはたらき、動脈硬化	/	
5	内部障害② 心臓機能障害②虚血性心疾患、心不全、ペースメーカー	/	
6	内部障害③ 呼吸機能障害 慢性閉塞性肺疾患、ALS、在宅酸素療法	/	
7	内部障害④ 腎機能障害 腎臓のしくみとはたらき、腎不全、人工透析	/	
8	内部障害⑤ 排泄機能障害①泌尿器系のしくみとはたらき、生活上の困難	/	
9	内部障害⑥ 排泄機能障害②ストーマのしくみとケア	/	
10	内部障害⑦ HIV・肝機能障害	/	
11	肢体不自由（脳性麻痺、筋ジストロフィー）	/	
12	人格障害、精神障害①（鬱病）	/	
13	精神障害②（双極障害、統合失調症）	/	
14	知的障害、発達障害（広汎性発達障害、学習障害、注意欠如多動性）	/	
15	まとめと試験対策	/	
[使用テキスト・参考文献] 中央法規 新・介護福祉士養成講座13 障害の理解		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 小テスト・定期試験・受講姿勢	

授 業 進 行 確 認 表

授業タイトル(科目名) 障害の理解B		授業の種類 講義	授業担当者 山根 聡子
授業の回数 8	時間数(単位数) 15(1)	配当学年・時期 1年 後期	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p style="text-align: center;">聴覚に障害を持つ人の身体的・心理的・社会的側面の特性を踏まえたうえで支援方法を理解する。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p style="text-align: center;">講義や演習を通して聴覚障害への理解を深める。</p> <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p style="text-align: center;">聴覚障害の種類や原因を理解し、障害特性に応じた支援を考え、実践することができる。</p>			
〔授業の進行状況〕			実施日
1	聴覚障害とは		/
2	聴覚障害の特性の理解		/
3	聴覚障害を持つ人とのコミュニケーション①		/
4	聴覚障害を持つ人とのコミュニケーション②		/
5	聴覚障害を持つ人とのコミュニケーション③		/
6	聴覚障害を持つ人への生活支援①		/
7	聴覚障害を持つ人への生活支援②		/
8	聴覚障害を持つ人への社会的資源		/
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>介護福祉士養成講座(編) 『最新 介護福祉士養成講座14 障害の理解』2019年、中央法規</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>(試験やレポートの評価基準など) 授業への取り組む姿勢や授業態度、定期試験の結果をもとに総合的に判断する</p>	

授 業 進 行 確 認 表

授業タイトル(科目名) 障害の理解C		授業の種類 講義	授業担当者 森 一成
授業の回数 8	時間数(単位数) 15(1)	配当学年・時期 2年 前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p style="text-align: center;">視覚に障害を持つ人の身体的・心理的・社会的側面の特性を踏まえたうえで支援方法を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p style="text-align: center;">講義や演習を通して視覚障害への理解を深める。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p style="text-align: center;">視覚障害の種類や原因を理解し、障害特性に応じた支援を考え、実践することができる。</p>			
[授業の進行状況]			実施日
1	視覚障害とは	/	
2	視覚障害の特性の理解①	/	
3	視覚障害の特性の理解②	/	
4	聴覚障害を持つ人とのコミュニケーション①	/	
5	聴覚障害を持つ人とのコミュニケーション②	/	
6	聴覚障害を持つ人への生活支援①	/	
7	聴覚障害を持つ人への生活支援②	/	
8	聴覚障害を持つ人への社会的資源	/	
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>介護福祉士養成講座(編) 『最新 介護福祉士養成講座14 障害の理解』2019年、中央法規</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>授業への取り組む姿勢や授業態度、定期試験の結果をもとに総合的に評価する</p>	

授業進行確認表

授業タイトル(科目名) 医療的ケアA		授業の種類 講義	授業担当者 藤田 梯子
授業の回数 10	時間数(単位数) 20(1)	配当学年・時期 2年前期	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケアの重要性を知り、身体構造や危険性を把握した上で安全なケアが実施できることを目的とする。 <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケアのしくみと法制度の理解。 ・経管栄養の知識の理解。 ・演習による経管栄養管理の技術の習得。 <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケアのしくみと法制度の理解ができる。 ・経管栄養についての総合的な知識を理解し、技術を習得することができる。 			
〔授業の進行状況〕			実施日
1	医療的ケアとは、医療提供体制の変遷	／	
2	人間と社会、医療と介護福祉士の倫理	／	
3	喀痰吸引、経管栄養に伴う危険	／	
4	ヒヤリハットとインシデントレポートの意義	／	
5	アクシデントと緊急時の対処	／	
6	救急蘇生	／	
7	滅菌と消毒、方法と適用	／	
8	スタンダードプリコーションと具体的感染対策	／	
9	呼吸器感染を起こす疾患	／	
10	バイタルサインの測定演習	／	
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p style="text-align: center;">メヂカルフレンド社 最新介護福祉全書⑬医療的ケア</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など)</p> <p style="text-align: center;">受講姿勢・小テスト・定期試験</p>	

授 業 進 行 確 認 表

授業タイトル(科目名) 医療的ケアB		授業の種類 講義・演習	授業担当者 藤田 梯子
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 2年 後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] ・医療的ケアの重要性を知り、身体構造や危険性を把握した上で安全なケアが実施できることを目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ・喀痰吸引の知識の理解。 ・経管栄養の知識の理解。 ・演習による喀痰吸引、経管栄養の技術の習得。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] ・感染、予防対策についての理解ができる。 ・喀痰吸引について総合的に理解し、演習により喀痰吸引技術が習得できる。 ・経管栄養について総合的に理解し、演習により経管栄養技術が習得できる。</p>			
[授業の進行状況]			実施日
1	呼吸器のしくみとはたらき(復習)、呼吸の異常	/	
2	喀痰吸引手技と注意点	/	
3	人工呼吸器と気管カニューレ	/	
4	こどもの吸引、体位ドレナージ	/	
5	消化器のしくみとはたらき(復習)、消化器系の症状	/	
6	経管栄養の適用と疾患、栄養剤の種類と適用	/	
7	経管栄養の手技と注意点	/	
8	喀痰吸引の実際①	/	
9	喀痰吸引の実際②	/	
10	喀痰吸引の実際③	/	
11	喀痰吸引の実際④	/	
12	経管栄養の実際①	/	
13	経管栄養の実際②	/	
14	経管栄養の実際③	/	
15	経管栄養の実際④	/	
<p>[使用テキスト・参考文献] メヂカルフレンド社 最新介護福祉全書⑬医療的ケア</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 受講姿勢・小テスト・定期試験</p>	

授 業 進 行 確 認 表

授業タイトル(科目名) 医療的ケアC		授業の種類 演習	授業担当者 藤田 梯子
授業の回数 6	時間数(単位数) 12(1)	配当学年・時期 2年 後期	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケアの重要性を知り、身体構造や危険性を把握した上で安全なケアが実施できることを目的とする。 <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習による喀痰吸引、経管栄養の技術の習得。 <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・喀痰吸引について総合的に理解し、演習により喀痰吸引技術が習得できる。 ・経管栄養について総合的に理解し、演習により経管栄養技術が習得できる。 			
〔授業の進行状況〕			実施日
1	喀痰吸引、経管栄養の実際①		/
2	喀痰吸引、経管栄養の実際②		/
3	喀痰吸引、経管栄養の実際③		/
4	喀痰吸引、経管栄養の実際とチェック①		/
5	喀痰吸引、経管栄養の実際とチェック②		/
6	まとめと試験対策		/
〔使用テキスト・参考文献〕		〔単位認定の方法及び基準〕	
メディカルフレンド社 最新介護福祉全書⑬医療的ケア		(試験やレポートの評価基準など) 受講姿勢・実技試験	

授 業 進 行 確 認 表

授業タイトル(科目名) 児童福祉論		授業の種類 講義	授業担当者 井出 沙里
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 2年 前期	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>子どもと家庭に関する幅広い事柄に対して、現存の社会資源がどのように活かされているのか、またどんな社会資源が今の子どもたちに必要なのかを創造し、子どもの幸せについて考えることができる。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>児童を取り巻く各種法律や児童福祉の理念等の理論的理解を踏まえたうえで、事例や視覚教材を用いて行う。</p> <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>人間の発達段階において子ども期がどんな意味を持ち、その子ども期をどのように過ごすことが子どもの幸せに繋がるのかを考えることができる。</p>			
〔授業の進行状況〕			実施日
1	児童福祉の理念と概念①		/
2	児童福祉の理念と概念②		/
3	児童福祉の理念と概念③		/
4	子ども観の変遷①		/
5	子ども観の変遷②		/
6	子ども観の変遷③		/
7	児童福祉の制度と体系①		/
8	児童福祉の制度と体系②		/
9	児童福祉の制度と体系③		/
10	児童福祉の現状と課題(少子化と子育て支援サービス)		/
11	児童福祉の現状と課題(保育ニーズ)		/
12	児童福祉の現状と課題(児童虐待)		/
13	児童福祉の現状と課題(社会的養護)		/
14	児童福祉の現状と課題(障害のある子どもの生活保障)		/
15	児童福祉の現状と課題(少年非行)		/
〔使用テキスト・参考文献〕 毎授業ごとレジュメを配布する		〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など) 授業内課題20点 授業への取り組む姿勢20点 試験60点	

授 業 進 行 確 認 表

授業タイトル(科目名) 地域福祉論		授業の種類 講義	授業担当者 鳥羽 由里江
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 2年 後期	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p style="padding-left: 40px;">福祉サービス利用者の地域での自立生活を支援する地域福祉の理念や方法を習得すること。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p style="padding-left: 40px;">テキストを中心に講義形式で行う。</p> <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p style="padding-left: 40px;">地域福祉の歴史的展開を踏まえて、今後の地域福祉の推進の在り方を考えられるようになる。</p>			
〔授業の進行状況〕			
			実施日
1	地域福祉とは何か		／
2	地域福祉の理念		／
3	地域福祉の発展過程 ～国外編～		／
4	地域福祉の発展過程 ～国内編～		／
5	地域福祉の主体		／
6	地域福祉の方法		／
7	コミュニティソーシャルワークとは		／
8	地域コミュニティの創造		／
9	地域福祉を取り巻く諸施策①		／
10	地域福祉を取り巻く諸施策②		／
11	地域福祉の推進機関①		／
12	地域福祉の推進機関②		／
13	ソーシャルワポートネットワーク		／
14	地域トータルケアシステム		／
15	これからの地域福祉に求められるもの		
〔使用テキスト・参考文献〕		〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など)	
『社会福祉学習双書』(編)『地域福祉論 地域福祉の理論と方法』全社協、2019年		出席5% 平常点15% ノート点20% 定期試験60%	

授 業 進 行 確 認 表

授業タイトル(科目名) 社会福祉援助技術演習		授業の種類 講義・演習	授業担当者 鳥羽 由里江
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 2年 前期	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p style="text-align: center;">実際の福祉現場との密接な連携の中で、現場に即した応用力や実践力を養っていくこと。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p style="text-align: center;">毎回テーマを設定し、学生が主体的に考え、話し合い、プレゼンテーションを行う。</p> <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p style="text-align: center;">社会福祉主事という対人援助の専門職が実践するために深く理解し、身につけておく必要がある知識と技術の習得を目指す。</p>			
〔授業の進行状況〕			実施日
1	対人援助者に必要な「豊かな人間性」について考える		／
2	対人援助者に必要な「誠実さ」について考える		／
3	対人援助者に必要な「モチベーション」について考える		／
4	専門職の「価値」について考える		／
5	専門職の「倫理」について考える		／
6	「自己実現」について考える		／
7	「人間が持つ個性と多様性」について考える		／
8	実践としての「ソーシャル・インクルージョン」を考える		／
9	実践としての「アウトリーチ」を考える		／
10	実践としての「ストレングス視点」を考える		／
11	実践としての「エンパワメント」を考える		／
12	社会資源とは		／
13	社会資源を開拓する		／
14	「私」から「私たち」への意識		／
15	人としての成長の証		
〔使用テキスト・参考文献〕		〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など)	
毎授業ごとレジュメを配布する。		授業内課題20点 授業への取り組む姿勢20点 レポート試験60点	

授 業 進 行 確 認 表

授業タイトル(科目名) 福祉事務所運営論		授業の種類 講義	授業担当者 鳥羽 由里江
授業の回数 15	時間数(単位数) 2(30)	配当学年・時期 2年 後期	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p style="padding-left: 40px;">日々変化する社会福祉法制度について実践的に理解することができる。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p style="padding-left: 40px;">テキストを基本とした講義や視聴覚教材を用いたり、グループワークなどを行う。</p> <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p style="padding-left: 40px;">社会福祉主事に求められる法制度について理解し、利用者やその家族に説明することができる。</p>			
〔授業の進行状況〕			
			実施日
1	現代社会と福祉事務所の運営		/
2	福祉事務所の歴史的展開①		/
3	福祉事務所の歴史的展開②		/
4	福祉事務所の業務①		/
5	福祉事務所の業務②		/
6	福祉事務所の業務③		/
7	福祉事務所の組織①		/
8	福祉事務所の組織②		/
9	福祉事務所の運営①		/
10	福祉事務所の運営②		/
11	福祉事務所の役割		/
12	福祉事務所の専門職員とその専門性		/
13	福祉事務所の専門職員とその倫理性		/
14	福祉事務所における実践事例		/
15	福祉事務所をめぐる最近の動向と課題		/
〔使用テキスト・参考文献〕		〔単位認定の方法及び基準〕	
宇山勝儀・船水浩行(編) 『福祉事務所運営論』2016年、ミネルヴァ書房		(試験やレポートの評価基準など) 授業への取り組む姿勢や課題レポートなどを踏まえて総合的に評価する。	

授 業 進 行 確 認 表

授業タイトル(科目名)		授業の種類	授業担当者
社会福祉施設経営論		講義・演習	鳥羽 由里江
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15	30	2年 前期	必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>社会福祉法人の存在意義を再確認し、現代社会における社会福祉法人の在り方を考察することができる。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>講義形式で社会福祉施設経営管理における基本的な知識を習得し、演習として各自が自分が管理者となることをシュミレーションして施設経営をプレゼンテーションする。</p> <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>厳しい外部のもとでも社会的役割を見失わず、目的を実現するための知識を習得することができる。</p>			
〔授業の進行状況〕			
			実施日
1	社会福祉法人の意義		／
2	社旗福祉法人の役割		／
3	社会福祉法人の新しい課題		／
4	社会福祉施設の社会的役割		／
5	社会福祉施設の概況と推移		／
6	さまざまなサービス供給主体の参入とこれからの社会福祉施設の役割		／
7	社会福祉施設経営管理の基礎的知識①		／
8	社会福祉施設経営管理の基礎的知識②		／
9	社会福祉施設経営管理の基礎的知識③		／
10	社会福祉施設のサービス管理①		／
11	社会福祉施設のサービス管理②		／
12	社会福祉施設のサービス管理③		／
13	社会福祉施設を創ろう①		／
14	社会福祉施設を創ろう②		／
15	社会福祉施設を創ろう③		／
〔使用テキスト・参考文献〕		〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など)	
全社協『社会福祉施設経営管理論2019』		授業内課題20点 授業への取り組む姿勢20点 レポート試験60点	

授 業 進 行 確 認 表

授業タイトル(科目名) 社会福祉施設経営論		授業の種類 講義・演習	授業担当者 鳥羽 由里江
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 2年 後期	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における社会福祉施設の役割を理解し、施設運営に必要な知識と能力の習得を目指す。 ・これから社会福祉の現場の第一線で働いていく学生に対して必要なメッセージを伝えること。 <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社旗福祉施設運営に関わる基本的な法制度、運営の理念を学び、よりよいサービスを提供するための運営管理の理論や実践的な方法を取り上げます。 ・学生とディスカッションしながら進めていく。 <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉サービス提供組織の運営の視点と方法(経営管理・サービス管理等)について理解する。 ・学生一人ひとりが自己の援助観の基底を創造することができる 			
〔授業の進行状況〕			実施日
1	対人援助者になった経緯		／
2	対人援助者になって思ったこと・感じたこと・考えたこと		／
3	対人援助者として悩んだこと・失敗したこと・後悔したこと		／
4	対人援助者として悩んだこと・失敗したこと・後悔したこと転機になった人との出会いや出来事		／
5	施設長になってから思ったこと・感じたこと・考えたこと		／
6	現在の援助観		／
7	これからの対人援助者にもとめられる視座		／
8	社会福祉施設とその使命		／
9	社会福祉法人 その意義と役割		／
10	社会福祉施設の経営管理①		／
11	社会福祉施設の経営管理②		／
12	社会福祉施設の経営管理③		／
13	社会福祉施設のサービス管理①		／
14	社会福祉施設のサービス管理②		／
15	社会福祉施設の人事管理と人材育成 講義のまとめ・振り返り・将来への展望		／
〔使用テキスト・参考文献〕 無し		<p>〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>出席状況及び授業態度を前提として、講義終了後に提出するレポートの評価を単位認定要件とする</p>	

授 業 進 行 確 認 表

授業タイトル(科目名)		授業の種類	授業担当者
法学		講義	中井 英樹
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15	30(2)	2年 前期	必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p style="padding-left: 40px;">基礎法学を学び社会福祉業界の実務に関連した諸法令を理解する</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p style="padding-left: 40px;">法の概要を理解し、社会福祉業界の実務に関連する各法を横断する</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p style="padding-left: 40px;">社会福祉業界で活躍すべく、実務に関連した諸法令の理解を深める</p>			
[授業の進行状況]			実施日
1	法学概論① 日常生活と法		/
2	法学概論② 法の概念		/
3	法学概論③ 法の体系		/
4	憲法① 統治		/
5	憲法② 人権		/
6	憲法③ 人権		/
7	民法① 総則		/
8	民法② 物権		/
9	民法③ 債権		/
10	民法④ 親族		/
11	民法⑤ 相続		/
12	民法⑥ 成年後見人		/
13	日常業務に役立つ法① 裁判・個人情報保護法その他		/
14	日常業務に役立つ法② 労働法その他		/
15	事例で学ぶトラブル予防法務 事例演習		/
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)	
オリジナルレジュメを使用		試験・合格基準6割	

授 業 進 行 確 認 表

授業タイトル(科目名) 経済学		授業の種類 講義	授業担当者 金 佑 榮
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 2年 後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済や社会保障に関して、一とおりのことを理解する 2. 介護や福祉の仕事に役立つ知識を学び、吸収する <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>商品、貨幣、企業、労働といった経済学の基礎的な事がらと、国と地方の財政、税制、社会保障並びに社会資本整備と環境問題、国際経済について講義する</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済学に関する一とおりのことと理解とともに、今後自ら学んでいく上での基礎となることをめざす 2. 日本経済新聞など労働関係の報道記事を読んで、労働経済学的に理解できるようにする 			
[授業の進行状況]			
			実施日
1	ガイダンス		/
2	商品・サービス		/
3	貨幣・金融		/
4	企業と労働		/
5	国の財政		/
6	地方財政		/
7	税制		/
8	社会保障(賃金、雇用を含む)		/
9	経済学の主な理論		/
10	社会資本		/
11	環境問題		/
12	高齢者の就業国際化時代の経済		/
13	近年の経済トピック1		/
14	近年の経済トピック2		/
15	まとめ		/
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>PPT資料を作成し、配布 参考文献:『資本主義のしくみ』</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>発表会とレポート、受講態度を合わせて評価</p>	

授 業 進 行 確 認 表

授業タイトル(科目名) 社会福祉実習指導		授業の種類 講義・演習	授業担当者 鳥羽 由里江
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 2年 前期	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p style="padding-left: 20px;">社会福祉主事に必要な専門的知識・技術・職業倫理を自己のものとして習得していくこと</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p style="padding-left: 20px;">アクティブラーニングの手法を用いた学生主体の授業展開を行う。</p> <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p style="padding-left: 20px;">多面的に展開される社会福祉主事の仕事に対する深めることができる。</p>			
〔授業の進行状況〕			実施日
1	オリエンテーション		/
2	社会福祉主事とは		/
3	社会福祉主事の役割①～事例を通して		/
4	社会福祉主事の役割②～事例を通して		/
5	社会福祉主事の役割③～事例を通して		/
6	社会福祉主事の役割④～事例を通して		/
7	社会福祉主事の役割⑤～事例を通して		/
8	社会福祉サービスにおける就労支援の位置づけ		/
9	社会福祉サービスにおける就労支援の歴史		/
10	障害のある人が働くとは…①		/
11	障害のある人が働くとは…②		/
12	障害のある人が働くとは…③		/
13	障害のある人が働くとは…④		/
14	障害のある人が働くとは…⑤		/
15	まとめ		/
〔使用テキスト・参考文献〕 毎授業ごとレジュメを配布する		〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など) 授業内課題20点 授業への取り組む姿勢20点 レポート試験60点	

授 業 進 行 確 認 表

授業タイトル(科目名)		授業の種類	授業担当者
社会福祉実習指導		講義・演習	鳥羽 由里江
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15	30(2)	2年 後期	必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕 社会福祉実習において必要な知識や技術を習得すると共に、社会福祉実習終了後の振り返りを行うことで社会福祉主事として仕事をする上で必要な知識、援助技術の内容の理解を深めることができる。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 事例検討を中心に行う。</p> <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕 事例検討を通して対象利用者や対象利用者が置かれている状況を多角的に理解することができる。</p>			
〔授業の進行状況〕			
			実施日
1	知的障害の特性について考える		／
2	発達障害の特性について考える①		／
3	発達障害の特性について考える②		／
4	発達障害の特性について考える③		／
5	高次脳機能障害の特性について考える		／
6	「働く」ことを考える		／
7	障害を持って「働く」ことを考える		／
8	日本の就労支援施策について		／
9	援助者として就労支援を考える①		／
10	援助者として就労支援を考える②		／
11	援助者として就労支援を考える③		／
12	援助者として就労支援を考える④		／
13	援助者として就労支援を考える⑤		／
14	援助者として就労支援を考える⑥		／
15	まとめ		／
〔使用テキスト・参考文献〕		〔単位認定の方法及び基準〕	
毎授業ごとレジュメを配布する。		(試験やレポートの評価基準など) 授業内課題20点 授業への取り組む姿勢20点 レポート試験60点	

授 業 進 行 確 認 表

授業タイトル(科目名) 情報処理		授業の種類 講義	授業担当者 藤田 梯子		
授業の回数 8	時間数(単位数) 15(1)	配当学年・時期 2年 前期	必修・選択 必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>基本的な文書作成、表計算とグラフの活用、インターネットの情報活用、スライドソフトによるプレゼンテーションの基本を習得することにより、事例研究の原稿作成、事例発表に活かすことができる。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>パソコン室のパソコンを各自使用し、実際に体験しながら技術を習得する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>office wordでの図、画像、表を配置した文書を作成することができる。表はoffice excelでの作成、貼り付けを行う。</p>					
[授業の進行状況]			実施日		
1	パソコンの基本的知識、office wordでのページ設定、文字入力、フォントや文字効果		/		
2	office word 図形、画像、表の挿入		/		
3	office word 表、画像を挿入してのカレンダー作成		/		
4	office excel 表作成、計算、グラフの作成		/		
5	office powerpoint でのスライド作成の基本とプレゼンテーション資料作成		/		
6	office powerpoint でのプレゼンテーション資料作成		/		
7	office word、excelを活用してのチラシ作成		/		
8	実技試験		/		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]			
配布資料		<p>受講姿勢、毎回の提出課題 実技試験配点</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;"> <ul style="list-style-type: none"> ・全体のバランス 20点 ・文字入力の正確さ 20点 ・図と図の効果 10点 </td> <td style="width: 50%;"> <ul style="list-style-type: none"> ・画像の貼り付け 20点 ・グループ化 10点 ・excelの使用 10点 ・USBへの保存 10点 </td> </tr> </table>		<ul style="list-style-type: none"> ・全体のバランス 20点 ・文字入力の正確さ 20点 ・図と図の効果 10点 	<ul style="list-style-type: none"> ・画像の貼り付け 20点 ・グループ化 10点 ・excelの使用 10点 ・USBへの保存 10点
<ul style="list-style-type: none"> ・全体のバランス 20点 ・文字入力の正確さ 20点 ・図と図の効果 10点 	<ul style="list-style-type: none"> ・画像の貼り付け 20点 ・グループ化 10点 ・excelの使用 10点 ・USBへの保存 10点 				

授 業 進 行 確 認 表

授業タイトル(科目名) 福祉総合演習		授業の種類 演習	授業担当者 鳥羽由里江・長谷川邦子 山田由記奈・吉田由香
授業の回数 8	時間数(単位数) 15(1)	配当学年・時期 1年 前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p style="padding-left: 40px;">介護福祉士に求められる記録を書くことができる。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p style="padding-left: 40px;">毎回レジュメを配布し、個々人でワークノートを作成する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p style="padding-left: 40px;">介護福祉実習での実習日誌を的確に記述することができる。</p>			
[授業の進行状況]			実施日
1	介護福祉士の記録の重要性について		/
2	介護記録の基本的な書き方		/
3	生活場面別の観察のポイントと介護記録の書き方～食事場面～		/
4	生活場面別の観察のポイントと介護記録の書き方～排泄場面～		/
5	生活場面別の観察のポイントと介護記録の書き方～入浴～		/
6	介護記録の書き方 実践編①		/
7	介護記録の書き方 実践編②		/
8	介護記録の書き方 実践編③		/
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>授業ごとにレジュメを配布する。</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>授業への取り組む姿勢と毎回の授業での課題 に対する成果物を見て総合的に評価する。</p>	

授 業 進 行 確 認 表

授業タイトル(科目名) 福祉総合演習		授業の種類 演習・確認テスト	授業担当者 鳥羽由里江・長谷川邦子 山田由記奈・吉田由香
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 2年 前期	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>卒業時の国家資格である『介護福祉士』の受験にむけて、知識・技術・援助者としての視点を備えた専門職として、学びを深め、目標に向け意欲的に取り組む</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学び終えた科目を復習し、更に理解を深める ・実際の国試問題に取り組み、自身の知識だけでなく、問われていることが何か読解力を身につける ・個々の苦手な科目や間違えやすい項目を自覚し、目標をもって学ぶ <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びを深め、卒業時の国家試験合格をめざす ・自身がめざす介護福祉職への自覚を高める 			
〔授業の進行状況〕			
			実施日
1	福祉の視点 オリエンテーション 基本理念 専門用語		／
2	認知症の理解①		／
3	認知症の理解②		／
4	介護の基本①		／
5	介護の基本②		／
6	生活支援技術		／
7	障害の理解①		／
8	障害の理解②		／
9	総合問題		／
10	こころとからだのしくみ①		／
11	こころとからだのしくみ②		／
12	発達と老化の理解①		／
13	発達と老化の理解②		／
14	社会の理解①		／
15	社会の理解②		／
〔使用テキスト・参考文献〕 中央法規 : 介護福祉士 国試ナビ 介護福祉士 受験ワークブック		〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など) 授業への取りくみ 毎回の確認テストの点数	

授 業 進 行 確 認 表

授業タイトル(科目名) 福祉総合演習		授業の種類 講義・演習	授業担当者 鳥羽 由里江
授業の回数 23	時間数(単位数) 45(3)	配当学年・時期 2年 後期	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕 卒業試験と介護福祉士国家試験に合格できる知識の習得を目指す。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 模擬試験と解説を行う。</p> <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕 卒業試験と介護福祉士国家試験に合格できる。</p>			
〔授業の進行状況〕			実施日
1	模擬試験		/
2	解説		/
3	模擬試験		/
4	解説		/
5	模擬試験		/
6	解説		/
7	模擬試験		/
8	解説		/
9	模擬試験		/
10	解説		/
11	模擬試験		/
12	解説		/
13	模擬試験		/
14	解説		/
15	模擬試験		/
16	解説		/
17	模擬試験		/
18	解説		/
19	模擬試験		/
20	解説		/
21	模擬試験		/
22	解説		/
23	まとめ		/
〔使用テキスト・参考文献〕 介護福祉士国家試験受験対策研究会(編) 『介護福祉士国家試験 模擬問題集2021』 2020年、中央法規		〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など) 模擬試験の結果で評価する。	

授 業 進 行 確 認 表

授業タイトル(科目名)		授業の種類	授業担当者
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p>			
[授業の進行状況]			実施日
1			/
2			/
3			/
4			/
5			/
6			/
7			/
8			/
9			/
10			/
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)	

授 業 進 行 確 認 表

授業タイトル(科目名)		授業の種類	授業担当者
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p>			
[授業の進行状況]			
			実施日
1			/
2			/
3			/
4			/
5			/
6			/
7			/
8			/
9			/
10			/
11			/
12			/
13			/
14			/
15			
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護福祉実習 I - ①	授業の種類 実習	授業担当者名 鳥羽由里江・長谷川邦子・藤田悌子	
時間数(単位数) 70時間(9単位)	配当学年・時期 1年前期	必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険における在宅サービスの機能・役割が理解できる。 ・介護保険施設の機能・役割が理解できる。 ・職員の構成と職務内容について理解する。 ・地域における在宅サービスの機能と役割を学ぶ。 ・利用者とコミュニケーションを図る。 ・安全・安楽に留意した基本的な生活支援技術が理解できる。 ・多職種の役割が理解できる。 ・職員の構成と職務内容について理解する。 ・生命や人権を尊重することの意味を考えることができる。 			
<p>[授業内容の概要]</p> <p>通所介護(デイサービス)または通所リハ(デイケア)に5日間 指定介護老人福祉施設または指定介護老人保健施設に5日間</p>			
<p>[使用テキスト]</p> <p>実習のしおり(本校作成) 保育実習日誌(本校作成)</p> <p>[参考文献]</p> <p>実習指導Aのテキストや講義内で紹介した書籍やDVDなど</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>実習施設の評価、実習日誌、巡回教員の評価などを総合的に勘案し、判断して評価を行う。</p>	

授業概要

授業のタイトル(科目名) 介護福祉実習 I - ③	授業の種類 実習	授業担当者名 鳥羽由里江・長谷川邦子・藤田梯子	
時間数(単位数) 7時間(9単位)	配当学年・時期 2年前期	必修	
[授業の目的・ねらい] ・訪問介護を必要とする利用者及び家族の特性、ニーズについて学ぶ。 ・家庭を取り巻く生活環境や社会背景、地域性等を総合的に捉える。 ・同行訪問を通して訪問介護の特性について理解する。 ・訪問介護で実践する生活支援技術について理解する。 ・訪問介護と多職種の機能、役割や基盤整備の現状について学ぶ。 ・在宅ケアを支える在宅支援ネットワークについて理解する。			
[授業内容の概要] 訪問介護事業所に1日間			
[使用テキスト] 実習のしおり(本校作成) 介護実習日誌(本校作成) [参考文献] 実習指導Cのテキストや講義内で紹介した書籍やDVDなど	[単位認定の方法及び基準] 実習施設の評価、実習日誌、巡回教員の評価などを総合的に勘案し、判断して評価を行う。		

授業概要

授業のタイトル(科目名) 介護福祉実習 I - ③	授業の種類 実習	授業担当者名 鳥羽由里江・長谷川邦子・藤田梯子	
時間数(単位数) 7時間(9単位)	配当学年・時期 2年前期	必修	
[授業の目的・ねらい] ・訪問介護を必要とする利用者及び家族の特性、ニーズについて学ぶ。 ・家庭を取り巻く生活環境や社会背景、地域性等を総合的に捉える。 ・同行訪問を通して、訪問介護の特性について理解する。 ・訪問介護で実践する生活支援技術について理解する。 ・訪問介護と多職種の機能、役割や基盤整備の現状について学ぶ。 ・在宅ケアを支える在宅支援ネットワークについて理解する。			
[授業内容の概要] 訪問介護事業所に1日間			
[使用テキスト] 実習のしおり(本校作成) 介護実習日誌(本校作成) [参考文献] 実習指導Cのテキストや講義内で紹介した書籍やDVDなど	[単位認定の方法及び基準] 実習施設の評価、実習日誌、巡回教員の評価などを総合的に勘案し、判断して評価を行う。		

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護福祉実習 I - ④	授業の種類 実習	授業担当者名 鳥羽由里江・長谷川邦子・藤田梯子	
時間数(単位数) 35時間(9単位)	配当学年・時期 2年前期	必修	
[授業の目的・ねらい] <ul style="list-style-type: none"> ・認知症グループホームの機能・役割を理解できる。 ・地域の生活者としての利用者の生活状況を理解するとともに、利用者の話を傾聴することを通して受容と共感を理解する。 ・提供サービスと職員の役割及び基本的ケアを理解する。 ・利用者の共同生活の場において、利用者自身が行う生活技術を活用した支援を理解する。 ・生活維持拡大のためや生活意欲向上のための支援の必要性が理解できる。 			
[授業内容の概要] 認知症対応型共同生活介護施設に5日間			
[使用テキスト] 実習のしおり(本校作成) 介護実習日誌(本校作成) [参考文献] 実習指導Cのテキストや講義内で紹介した書籍やDVDなど	[単位認定の方法及び基準] 実習施設の評価、実習日誌、巡回教員の評価などを総合的に勘案し、判断して評価を行う。		

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護福祉実習Ⅱ	授業の種類 実習	授業担当者名 鳥羽由里江・長谷川邦子・藤田梯子	
時間数(単位数) 182時間(6単位)	配当学年・時期 2年後期	必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険施設・障害者支援施設の機能・役割が理解できる。 ・利用者の生活リズムが理解できる。 ・介護過程を展開する対象利用者を決定し、アセスメントに基づいた介護過程を展開することができる。 ・障害・疾病に留意した安全・安楽な基本的な生活支援技術が実践できる。 ・利用者の個別性の根拠を考慮した生活支援技術が理解できる。 ・多職種協働の必要性が理解できる。 ・チームの一員として多職種の専門性が理解できる。 ・利用者の尊厳を支えるケアの意義が理解できる。 ・介護サービス提供の役割が理解できる。 			
<p>[授業内容の概要]</p> 指定介護老人福祉施設または指定介護老人保健施設もしくは障害者支援施設で26日間			
<p>[使用テキスト]</p> 実習のしおり(本校作成) 介護実習日誌(本校作成) <p>[参考文献]</p> 実習指導Dのテキストや講義内で紹介した書籍やDVDなど		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> 実習施設の評価、実習日誌、巡回教員の評価などを総合的に勘案し、判断して評価を行う。	

授業概要

授業のタイトル(科目名) 社会福祉実習	授業の種類 実習	授業担当者名 鳥羽由里江
時間数(単位数) 90時間(3単位)	配当学年・時期 2年主事コース後期	必修
[授業の目的・ねらい] ・現場体験を通じて社会福祉主事として仕事をする上で必要な知識、援助技術の内容の理解を深める。 ・講義で学んだ知識に基づいて利用者との人間的な関りを深め、利用者が求めている社会福祉の需要に関する理解力や判断力を養う。 ・社会福祉の知識や技術を実際に活用し、援助業務に必要となる資質・能力・技術を習得する。 ・職業倫理を身につけ、福祉専門職としての自覚に基づいた行動ができるようにする。 ・関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を理解する。		
[授業内容の概要] ・障害者就労支援B型事業所または障害通所多機能型事業所 または児童発達支援・放課後等デイサービスで11日間 ・福祉事務所で半日		
[使用テキスト] 実習のしおり(本校作成) 社会福祉実習日誌(本校作成) [参考文献] 社会福祉実習指導の講義内で紹介した書籍やDVDなど	[単位認定の方法及び基準] 実習施設の評価、実習日誌、巡回教員の評価などを総合的に勘案し、判断して評価を行う。	